
里香と僕の病室物語

有栖川 玲緒

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

里香と僕の病室物語

【Nコード】

N1736Q

【作者名】

有栖川 玲緒

【あらすじ】

あの日。あんなことが起こるなんて……。裕一は頭を抱えていた。そう、全てが夢であって欲しい。僕は今、悪い夢を見ているんだ。THE悪夢。

そんな裕一の願いを神は叶えてくれたのだろうか。

(前書き)

電撃文庫

橋本紡

半分の月がのぼる空

原作3巻ネタです。

念の為R-15タグをつけさせていただいたのですが、そう言うほど卑猥なものではありませんのでご安心下さいw

慰めて欲しかったんだと思う。誰でもよかったんだ。彼女でも、友達でも、妹でも、他の誰かでも。優しい言葉に餓えていた。心が折れていたんだと思う。だから、誰でもよかったんだ。慰めてほしかっただけなんだ。

自分が誘ったのではないと思う。そういう根性も甲斐性もない。しかし彼女に誘われた覚えもなかった。自然に。そういうしかないけれどそれが言い訳でしかないことはわかっていた。自然に。

そんな風に誤魔化しただけ。

気がつくと

僕はベッドの上に寝転がっていた。右横に彼女の暖かい身体があった。彼女の唇が僕の頬を撫でるように下りてゆく。身体が痺れる。もう抵抗する気もなく、ただ、されるがままになっている。哀しい。やめたい。でもやめられない。快感に震える自分の浅ましさが、ばかみたいに弾んでる心臓が、やけに哀しい。彼女が髪を撫でてきた。そして耳元に唇を寄せる。温かい吐息。

それにしてもいつ上着とシャツを脱いだのだろうか。まったく覚えがない。

僕が脱いだのだろうか、僕が脱がせたのだろうか。彼女は薄い桃色のブラジャーに身をつけていた。カップの上半身がフリフリのレースになっていて、縁に小さな桜の模様がついている。右と左にすこしずつ。柔らかい肌にその模様がよく映えた。右

の肩紐がズレて、肘のあたりにぶらんと垂れている。彼女の肘の内側が、僕の脇腹にピタリと触れた。とても温かった。心が緩んだ。ぬくもりに負けた。僕は手を伸ばし、彼女の背中に回した。あ、と彼女の口から声が漏れた。身体を寄せ、そして重なりあう。身体の奥底にある衝動が動きだし、それは僕の行動を完全に支配した。なにも考えてはいなかった。考えられなかった。それでも身体が動いた。

彼女の細い腰に手をまわし、そのまま身体の上下を入れ替える。ベッドから落ちそうになりながら、僕は彼女を見おろした

という夢をみたんだ――

「おはよう。裕一。どうしたの?」

僕が布団を跳ね飛ばし起きると、里香が居た。微笑んでいる。僕

の顔をみながら不思議そうに尋ねた。まず、何かがおかしい。何かが。こう。なんていうか。まあ、何かが変なのだ。里香の微笑み？違う。何かが。こう……。僕は時計を見た。時間は昼の3時過ぎだった。そうだ。どうして里香が居るんだ。謎はそこだ。僕は里香に尋ねた。

「里香。どうして里香が僕の病室にいるんだ？」

「え、どうしてって。……裕一の寝顔が可愛かったから」

微笑む里香。すごく可愛い里香。僕の大好きな里香。あんな夢を見たなんて知られたら。僕は里香に殺されるだろう。いや、殺されるくらいならまだましだ。前の田々コレクションの時みたいは一切口をきいてくれなくなったらどうしよう。それだけは嫌だ。だから。僕は里香にだけは夢の事を黙っておいた。

「変な裕一」

微笑む里香。こんな日常が続いてくれたらいいのに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1736q/>

里香と僕の病室物語

2011年1月19日08時57分発行